

校長室より

平成29年6月6日

図書委員会による「おはなしの会」

本校の図書委員は年3回、白鷹町立図書館で開催されている「おはなしの会」に参加しています。「おはなしの会」は白鷹町立図書館が毎月第1土曜日に開催し、「白たか子どもの本研究会」の皆様が集まった子どもたちに絵本などを読み聞かせしています。昭和46年に始まり、今回で362回も開催されています。荒砥高校の参加は確かなことは分かりませんが、平成14年頃から参加している記録が残っています。

6月3日に開催された「おはなしの会」では、図書委員の3年守谷愛咲花さんが紙芝居「てぶくろ」、山口治世さんが絵本「いるのいないの」、2年大木青空さん、芳賀竜也さんが紙芝居「やさしいおともだち」を読みました。生徒達は学校の図書館にある絵本や紙芝居から子どもたちが喜んでもらえるようなものを選び、1週間前から練習をしていたということです。家族の方に連れられた多くの子どもさんに聞いていただき、生徒は緊張した様子でしたが、読み終わると大きな拍手をいただき、ほっとした様子でした。読み終えた生徒は、「子どもたちの喜ぶ顔が見えて良かった」、「子どもたちに上手に読んであげられるか不安でしたが、真剣に聴いてくれてうれしかった」、「もっと子どもたちと目を合わせて読みたかった」などの感想を持ち、次回以降の参加を希望している生徒もおりました。

荒砥高校の図書委員は今年の10月、11月に開催される2回の「おはなしの会」にも参加させていただく予定ですので、お時間がございましたら、お子様とご一緒においでいただき、生徒の読む物語を聴いて下さい。

【絵本を読んでいる風景】



【今回参加した図書委員の生徒と】

